

びわの潮風害樹に対する葉面散布の効果						
<p>[要約] 8月半ばまでに潮風害による被害を受け、樹勢低下したびわ樹に対して、<u>葉面散布</u>を7~10日間隔で10回以上行うことで、<u>樹勢回復</u>を促進できる。</p>						
長崎果樹試験場・施肥改善科	専門	土壌肥料	対象	びわ	分類	指導
平成4年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

1991年の潮風害によってびわ産地は著しい被害を被った。潮風害によって樹勢の低下したびわ樹の樹勢回復対策として、4年生のポット植えびわ樹を用いて塩水散布による潮風害の再現試験を行い、被害樹に対する葉面散布の効果を検討した。

[成果の内容・特徴]

- ① 塩水散布時期が早く、葉面散布回数が10回以上になった7月、8月処理区では葉面散布の効果が明らかに認められるが、塩水散布時期が遅く葉面散布回数の少ない10月処理区では明らかでない。
- ② 塩分濃度の違いに対する葉面散布の効果は、海水の約2倍の塩水散布に対して最も効果が大きく、5倍塩水散布でも効果が認められるが、対照区及び海水濃度の塩水散布に対しては明らかな効果は認められない。

[成果の活用面・留意点]

- ① 潮風被害樹の樹勢回復が図れる。
- ② 被害が軽い場合は葉面散布の効果が少ないので、被害程度中以上の樹に対して葉面散布を行う。

[具体的データ]

表1 葉面散布<sup>2</sup>による着葉率<sup>3</sup>の変化

処 理	対 照			海水濃度			2 倍海水			5 倍海水			散布回数
	前 <sup>x</sup>	12 <sup>x</sup>	1 <sup>x</sup>	前	12	1	前	12	1	前	12	1	
7月 散布	100	82	73	29	86	88	14	59	47	11	17	18	15
無	100	99	96	59	94	101	7	41	37	6	14	13	
8月 散布	105	120	140	55	69	57	60	63	56	63	19	20	11
無	105	102	109	55	74	70	55	37	32	52	3	2	
9月 散布	103	80	70	76	60	55	48	52	50	45	44	39	8
無	103	80	72	76	50	50	53	35	38	35	30	25	
10月 散布	90	76	71	50	36	37	39	34	39	24	15	16	4
無	84	74	68	52	43	40	37	21	20	25	13	12	

<sup>2</sup> 葉面散布剤(6-6-3)500倍液 塩水散布1ヵ月後~12月上旬 7~10日間隔

<sup>3</sup> 塩水処理前を100とした割合

<sup>x</sup> 前は葉面散布開始前 12は1992年12月 1は1993年1月

[その他]

研究課題名：びわの潮風害実態調査及び被害回復対策試験

予算区分：受託

研究期間：平成4年度(平成3~4年)

研究担当者：林田至人、富永重敏

発表論文等：平成4年度果樹試験場業務報告

残された問題点：10月処理樹に対する樹勢回復対策の検討が必要である。